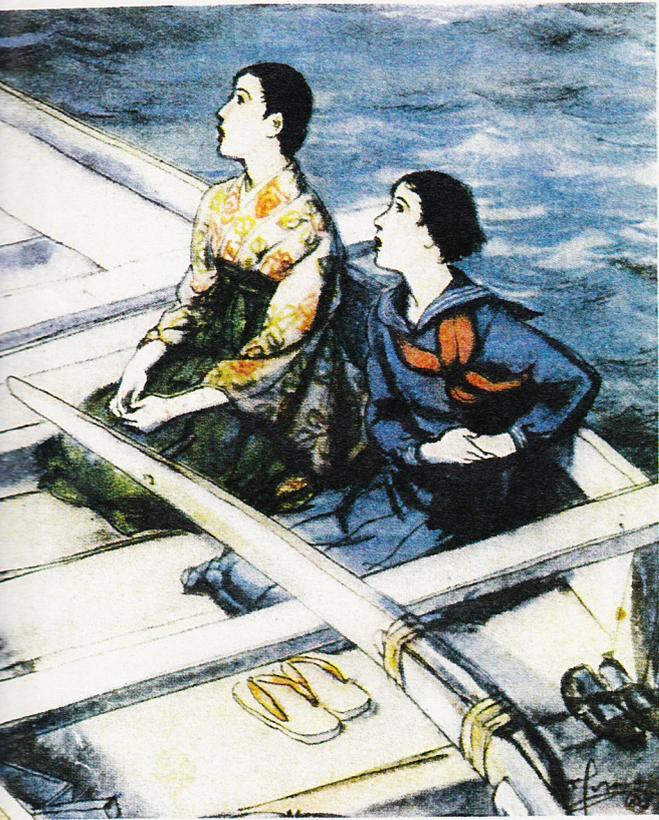


# 加藤まささを

静岡県藤枝生まれ。立教大学英文科在学中に抒情画を発表し、大正末から昭和にかけて、少女たちの寵児となった。以来『少女画報』『少女倶楽部』『令女界』などを舞台に、やるせない少女のため息を代弁しつづけたが、抒情詩・童謡・小説にもその才を発揮した。「月の砂漠」はまささをの作詩である。代表作に小説・挿絵「遠い薔薇」「消えゆく虹」、童謡画集「合歡の揺籃」など。(かとう・まささを／一八九七―一九七七)



灯台の火 『令女界』口絵



八十作「新月の誓」 『純情詩集・花物語』昭和7年刊

黄色い薔薇 『少女画報』口絵 昭和2年



加藤まささを作「消えゆく虹」口絵



薔薇 『少女倶楽部』昭和4年7月号付録

